

令和元年6月22日現在

機関番号：21402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02968

研究課題名(和文) 小学校英語教科化に向けた現職教員のための校内研修プログラム開発

研究課題名(英文) Developing In-School Teacher Training Program for Teaching English in Elementary Schools

研究代表者

町田 智久 (Machida, Tomohisa)

国際教養大学・専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科・准教授

研究者番号：40648771

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小学校教員の外国語不安を軽減し、英語指導力の向上を目指した校内研修キットを開発し、公立小学校の教員を対象にその効果を検証した。3回にわたる研修で構成されている本研修キットを実施し、参加教員の外国語不安度の軽減に一定の効果があり、さらに教員の情意面でも英語指導に対してポジティブな変化がみられた。

秋田県内の全小学校(199校)に本研修キットを無料で配布したので、教員の英語指導力の向上に向けて一層活用してもらった。さらに全国の自治体や小学校に向けても、小学校英語教育学会等の研究発表の場で広く紹介し、外国語不安の軽減の重要性や英語での指導を目指した研修の効果について広めていきたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校における英語教科化の方針が文部科学省から示され、その全面実施(平成32年度)の時期も提示された。日本人の英語によるコミュニケーション能力の育成が一層叫ばれている今、より効果的な小学校英語の授業を実施するためにも、小学校教員の英語指導力向上をめざした本研究の意義は高い。また、日本全国の小学校および教育委員会等での指導力向上の取り組みに対しても広く貢献できる可能性を秘めており、この校内研修プログラム開発は、学校教育分野における社会的意義も大きい。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the development of in-service training DVD kit used in schools. To help elementary school teachers develop their target language skills as well as to build their confidence to use English, the researcher developed an in-service training program in collaboration with a local board of education and created it as a DVD kit that can be used at teachers' own pace in their busy schedule.

The three main components of the program are (a) reducing language anxiety, (b) understanding classroom language, and (c) learning teacher-talk. By using the DVD kit, 15 elementary school teachers in Akita Prefecture completed the training kit, decreased their anxiety levels, and showed their positive attitude toward teaching English as results. The DVD kit has been disseminated to all public schools in Akita Prefecture to improve teachers' preparation for teaching English in elementary schools.

研究分野：外国語教育

キーワード：小学校英語 教員研修

1. 研究開始当初の背景

文部科学省(2017a)から新学習指導要領が発表され、2020年からの小学校英語教科化が具体的になった。小学校では、新たに小学校3年生からの外国語活動が開始され、5・6年生では教科としての英語が始まるなど、指導内容も大きく変わることになる。各自治体では、2018年度から英語教育に関わる移行措置及び先行実施を行いながら、2020年の本格実施を目指して準備をすることになっている。

しかし、教員の準備状況は必ずしも万全だとは言い難い。全国の教育委員会の約6割が英語指導のための小学校教員研修を主催してはいるものの、小学校高学年を担当する教員全てが英語の研修を受けているわけではない(ベネッセ教育総合研究所, 2011; 英語教育研究センター, 2011)。また、その教員研修も研究者(バトラー, 2005; 山森, 2013)からは、指導理論にばかり目が向けられ、教員の基礎的な英語力の養成に力が注がれていないという指摘がなされている。Pinter(2017)は、「CEFR B2又はC1」(p. 51)レベル相当と、小学校英語指導には高い英語力が求められると述べている。しかし、実際には小学校教員の77%(Machida, 2016)が、自身の英語能力に不安を感じており、英語スピーキング力に対する自己評価も低い(Butler, 2004)。

新学習指導要領では、中学校英語教員の英語による指導は義務付けられているものの、小学校教員に対しては指導言語についての言及はない。しかし、『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(文部科学省, 2017b)等の付属資料では、英語を使った指導実践例が紹介されており、「指導者(日本人の教師)も英語を使うよいモデルとして、授業中の指示や質問にできるだけ英語を使うように努力したいものである」(p. 118)と述べている。そのため、小学校の英語教科化に向けては、担任教員の英語指導力の向上は不可欠である。一般に、現職教員の指導力向上には現職研修が活用されているが、集合研修における英語研修の全教員に対する実施は難しい。また、時間的・地理的理由から僻地の学校に勤務する教員に対しては、配慮が必要になってくる(樋口他, 2013)。そこで、多くの小学校教員が時間的・地理的拘束を気にせず、英語指導に向けての準備を行える研修が校内研修の充実が必要になってくる。そのため本研究では、その校内研修で活用できる英語指導力を向上させることを目指した「校内研修キット」の開発を行うこととする。

2. 研究の目的

本研究では、実用的で効果のある校内研修キットの開発をすることを目指した。これまで開発した集合型(町田・内田, 2015)や出前型(町田・高橋・黒川, 2017)の教員研修は、参加教員の英語に対する不安を軽減し、英語指導に対する前向きな姿勢を育むことができた。その効果を生かしながら、各学校で行える研修キットとして、DVDプレーヤーを使った形式でのキットを考案することとした。一人一人の教員が、DVDを見ながらでも実際にその場で積極的に研修に取り組む工夫をおこなうことで、より効果が出るように狙った。

3. 研究の方法

本研修キットの効果を検証するにあたり、以下の手法を活用して教員の外国語不安度や英語指導に対する情意面での変化を捕らえることとした。秋田県大仙市内の公立小学校2校において、本研修キットを活用した校内研修を実施した。それぞれ2017年度の冬休み期間中の別の1日を校内研修日として設定し、その日にDVDを使い3つの研修を行った。それぞ

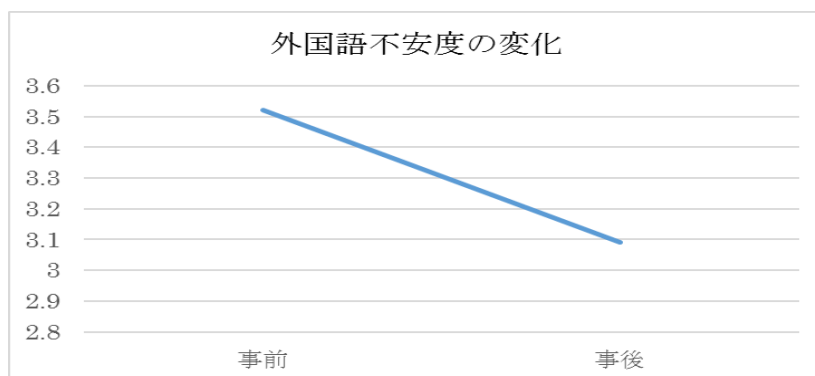
れの学校での校内研修には、その学校の教員のみが参加した。研修は午前中から始まり、昼食をはさんで夕方に終了した。研修参加者の中で有志が検証研究に参加し、外国語不安尺度（**TFLAS**）及び事前・事後アンケートの回答を行なった。

4. 研究成果

4.1 教員の外国語不安度の変化

研修参加教員の外国語（英語）に対する不安の値は、本研修キットを使った校内研修を行うことで下降した（図1）。

図1 研修参加者の外国語不安度の変化



研修参加者の外国語不安の平均値は、研修の前では **3.52**（事前：**SD = 0.48**）であり「多少不安」な状態であった。それが3回の研修を終了した直後では **3.09**（事後：**SD = 0.53**）と大きく下降した。研修の後も「多少不安」な状態ではあるが、不安のない状態（**3.00**未満）近くまで下がっている。研修前と研修後の外国語不安度の平均値について、*t*検定を用いて統計処理を行った。その結果、 **$t(14) = -4.36, p = .000$** となり、その差には有意差がみられた。また、参加者の外国語不安度の変化を個別にみると、研修後にその値が**3.00**以上の教員、つまり英語に不安を感じる教員の数**12名（80%）**から**8名（53%）**へと減少した。

4.2 事前・事後アンケート

研修に参加した教員には、事前と事後にそれぞれアンケートを実施した。その中には、外国語活動の指導に対する不安や、研修後の情意面での変化について尋ねた。その結果、本研修キットを使って校内研修を行った参加者からは、情意面でのポジティブな変化がみられた。

研修前のアンケートでは、不安な事として「教材研究や準備の時間が中々取れない」（教員A）や「**ALT**の先生との打ち合わせ時間の確保ができるか不安」（教員B）など英語指導の準備段階での不安の他に、「英語で会話することに慣れていない。すぐに単語が出てこない。」（教員C）や「自分の英語で授業ができるか不安」（教員D）など、教員自身の英語力に対する不安が示されていた。また、外国語活動の指導に何らかの不安を感じている教員は、参加者の**73.3%**に上った。

一方、研修後のアンケートでは、「せっかくなので、自分も楽しんでできればいいと思う。子どもたちと一緒に学ぶつもりで取り組みたい」（教員A）や、「実際に授業に使える場面や授業をもっと見てみたい」（教員B）など、事前アンケートでは不安を

口にしていた教員が、英語指導に前向きな意見を示すようになった。さらに、「できるだけ英語で話せるようになりたいと思う。そのためにも、単語を知ることが必要だと感じた。」(教員C)や「身振り手振り、知っていることを使って楽しんで外国語活動に取り組んでいきたい」(教員D)など、英語を使った指導にも積極的に取り組んでいこうという意見がみられた。

4.3 考察

本研究で開発した教員研修キットは、小学校教員の外国語不安を軽減し、英語指導に対する教員の意欲を高める効果があるといえる。特に、教員の外国語不安の軽減に関しては、短時間での実施に関わらず効果があった。これまでの多くの研究(Machida, 2016; Machida & Walsh, 2014)では、教員の英語指導や英語そのものに対する不安の高さが指摘されてきた。自信を持って英語を使いながら指導することが、より良い授業には欠かせない。その意味でも、教員の英語に対する不安軽減は教員研修に不可欠な要素といえる。本研修キットでは、第1部を「外国語不安を和らげよう」と題し、不安の軽減に向けて多くの時間を割いている。外国語不安の存在や、その原因、さらにはその対処法と、講義形式だけではなく様々な不安軽減の活動を取り入れた。そのため、研修に参加した教員も活動を通して徐々に英語に対する不安を軽減し、英語を使うことへの自信を伸ばしていったのだと思う。事後アンケートの中で、ある教員が次のように述べていた。「英語に対して、短時間で自信を深めることは難しいが、今回のDVDのように英語の特性などそのポイントやコツをつかむことで、自信アップにつながると思う。」英語と日本語の言語的な違いへの気づき、特にストレスやリズムを知ること、参加教員が英語の特性を理解することができたのだと思う。別の教員は「英語では、強さや速さが大きく変わることを知り、意識しようと思った」と述べている。これまでの英語教育ではあまり注目されてこなかった英語の特徴について知ること、どのように発音すればよいかの分かりやすさなど安心したのだと思う。さらに、不安を感じている他の教員との思いの共感などは、不安軽減に向けての有効な方法だと指摘されている(Horwitz, 2013)。本研修キットで学習した教員は、英語に対して不安を感じているのは自分一人ではないのだという安心感なども手伝って、外国語不安の軽減ができたのだと思う。

加えて、本研修キットの第1部の中で提唱している「英語での指導」に関しては、非常にスムーズに教員間に浸透していったように思う。新学習指導要領の中では、中学校英語教員に対しては英語での指導が求められているが、小学校教員には公式には求められていない。しかし、教室英語の使用やコミュニケーションを生かした指導が求められており、小学校教員自身も英語での指導の必要性を感じているのだと思う。これまでButler(2004)は「日本人教師の現在の英語力は、きちんと英語指導を行う上で必要だと教師自身が考える英語力よりもはるかに低い」(p. 268)と述べ、日本人の小学校教師の英語によるスピーキング力の問題点を指摘していた。英語使用の面で力を向上しない限り、より良い指導には結びつかない。本研修キットが新学習指導要領の一步先を目指したことで、校内研修に参加した教員の「教師としての高い資質」(Lee, Graham, & Stevenson, 1999, p. 189)を刺激し、より児童のためになる授業をしようという変化をもたらしたのではなからうか。事後アンケートの中で、教員Cは「できるだけ英語で話せるようになりたい」と述べていたし、別の教員も「間違えて

もどンドン英語を使って授業をしてみたいと思った」と回答していた。英語での指導に対する意欲の表れではないかと思う。実際に、研修キットの第2部では教室英語を導入・練習し、第3部では**MERRIER**アプローチを活用しながら、教室英語を練習する構成となっている。第1部で英語での指導の有効性に対する理論的な説明の後に、第2部・第3部での繰り返し練習することで、英語での指導に対しての具体的な方法を理解することができ、英語指導に対する意欲を高めることにつながったのだと思う。今後の課題としては、より具体的な英語指導への橋渡しが今後求められると思う。参加した教員からは、「児童に単語を学習させる時のポイントや工夫があれば研修したい」や「実際に授業に使える場面や授業をもっと見てみたい」などの声が寄せられた。今回の研修キットで学び、外国語不安を軽減し、英語指導への意欲を伸ばした小学校教員をさらに支えて行く上でも、より具体的な指導場面でどのように今回の研修キットを生かしていくのかを明らかにしていくことだと思う。学年別や活動別など、具体的な指導に向けた支援が今後一層必要になってくるといえる。

引用文献

- ベネッセ教育総合研究所. (2011). 『第2回 小学校英語に関する基礎調査：教員調査』 Retrieved from <http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=3179>
- バトラー後藤裕子. (2005). 『日本の小学校英語を考える：アジアの視点からの検証と提言』 三省堂.
- Butler, Y. G. (2004). What level of English proficiency do elementary school teachers need to attain to teach EFL? Case studies from Korea, Taiwan, and Japan. *TESOL Quarterly*, 38, 245-278.
- 英語教育研究センター. (2011). 『公立小学校の外国語活動に関する現状調査：教育委員会対象』 財団法人 日本英語検定協会.
- Hahn, L. D., & Dickerson, W. B. (1999). *Speechcraft: Discourse pronunciation for advanced learners*. Ann Arbor, MI: The University of Michigan Press.
- 樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子. (2013). 『小学校英語教育法入門』 研究社
- Horwitz, E. K. (2013). *Becoming a language teacher: A practical guide to second language learning and teaching* (Second ed.). Upper Saddle River, NJ: Pearson.
- Machida, T. (2016). Japanese elementary school teachers and English language anxiety. *TESOL Journal*, 7, 40-66. doi: 10.1002/tesj.189
- 町田智久・内田浩樹. (2015). 教師の外国語不安の軽減を目指した教員研修の開発. *JES Journal*, 15, 34-49.
- Machida, T., & Walsh, D. (2015). Implementing EFL policy reform in elementary schools in Japan: A case study. *Current Issues in language Planning*. Advance online publication. doi: 10.1080/14664208.2015.970728
- 町田智久・高橋規子・黒川美喜子. (2017). ティーム・ティーチングを生かした学級担任の基礎的英語力の向上の取り組み. *JES Journal*, 17, 102-117.
- 文部科学省. (2017a). 『小学校学習指導要領』 Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1384661_4_3_2.pdf.
- 文部科学省. (2017b). 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』 Retrieved from

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_3.pdf

Pinter, A. (2017). *Teaching young language learners* (Second ed.). Oxford, U.K.: Oxford University Press.

山森直人. (2013). 外国語活動に求められる教師の教室英語力の枠組みと教員研修プログラムの開発: 理論と現状を踏まえて. *JES Journal*, 13, 195-226.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

Tomohisa Machida, Elementary School Teachers' Journey Toward Teaching English, Teacher Journey 2018, 2018

町田智久、牛木豊、英語指導力の向上をめざした校内研修キットの開発、第18回小学校英語教育学会長崎大会、2018

Tomohisa Machida, Empowering Nonnative Elementary School Teachers: An In-service Teacher Training Kit, The TESOL 2019 International Convention & English Language Expo, 2019

〔図書〕(計 1 件)

町田智久、啓林館、小学校外国語教員研修用キット、2018、128

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。